佳作

最高の仲間とともに

山形県南陽市立沖郷中学校
３年　安部　滉翔

全国中学校体育大会山形県予選、種目サッカー競技、第３位南陽市立沖郷中学校。会場でその言葉を聞いたとき、感動が胸にこみあげてきた。

私たちサッカー部は、県で３位を掴み取ることができた。私たちはよく「12人の仲が良すぎるチーム」と言われてきた。そのくらいチームの絆は深かった。そのチーム力でたくさんの勝利を積み上げてきた。しかしその裏には、努力、葛藤、涙があった。

2020 年「５月」。私たちはコロナ禍で入学した。思い切り部活動やクラブ練習はできず、先生や違う小学校出身のクラスメイトの顔も分からず、不安な毎日。なんとなく過ごしていたら、いつの間にか３年生は引退し１、２年生が主体となった。もちろん勝ちたい気持ちはあったが、秋の新人大会、次の夏の地区総体と負け、無力さを痛感した。総体明けからは１カ月近く、ボールを使った練習は行われず、長距離と短距離の走り込みの日々。つらく、逃げたくもなったが「ここで逃げたら一生後悔する。」と思い走り続けた。そして私たちが主力となった新人大会は圧勝。まさに走り勝った。次の県南大会では強豪校に完敗したがそこから成長速度は上がった。いよいよ３年生になってのリーグ戦、そして県大会は文字通り血眼になって戦った。初めは県優勝までには５歩も 10 歩も遠かった。チームキャプテンとしてできたことは、ほんのひと握りだと思うが「このチームならどこまでも行けるし、いつでも笑い合える。」と思った。このことは一つの宝物として未来の自分に贈りたい。

今、私たちは進路選択という人生の一つ目の大きな分岐点にいる。部内では同じ高校に行ってサッカーをしようといった声も聞こえ、他のメンバーもこのチームが大好きなのだと感じ、嬉しかった。もちろん、大学、就職と岐路に立つにつれて、同じ道に進む人は減ると思う。それでも、またこの 12 人でサッカーがしたいと思えるチームの一員だったことを、未来の自分には自信と感謝をもって生活してもらいたい。

私の将来の夢は、社会の先生だ。今年度の社会担当の先生に影響され、自ら勉強している最中だ。未来の自分には初志貫徹を大切にしてほしい。さらに、未来の自分に一番伝えたいことは、人との絆づくりの大切さだ。教師という立場になっていれば、子ども、保護者、教員、外部の人たちと、他の職業以上に人間関係づくりが必要になってくるはずだ。実は、私は人間不信な部分がある。

自分が一番の信頼をおいている人や期待している人に裏切られた時のショックは 13 歳の私には大きすぎた。幸いにも、私がつらい経験を乗り越えられたのは、友人の存在があったからだ。また、悩みをいつでも相談できる友人もいる。そんな友人たちには感謝しかない。これからも支え合っていける関係でいられたらどんな壁も乗り越えられる。そう思える。今は先輩後輩、いろいろな人と関係を築くことができ、そのたくさんの人から学び、自分の成長のために吸収させてもらっている。特にサッカー部の仲間とはかけがえのない強い絆がもてたからこそ、県３位という結果を出すことができた。このような絆の結晶として結果に出ることは他にもある。何人かの先生と社会についての意見を交わす機会をいただいたり、テスト前に友人と教え合いをしたりすることで社会では最高点数を取ることができた。言葉にして伝えることは一番学びが身につく方法ということを改めて実感した。また一つ、人に助けられて成長することができた。こうして、私は「っぽくない」と言われながら先生への道を登り始めたところだ。

私は短気なので「っぽくない」と言われると人の夢に口を出すなと思うのが正直なところだが、周りの人から支えられて今の自分があると考えるとその言葉にすら感謝を感じるのだから不思議だ。

この私の気持ちや、ものの捉え方を変えてくれたのも人との関わり、特に３年間お世話になった先生方だ。自分の弱さを補うように巡り会えた先生方には大きな感謝をしている。そう考えると、やはり「っぽくない」先生に私はなりたいようだ。

中学時代にたくさんの人と関わり、繋がり、目に見える結果を手に入れ、未来の私に繋ぐ準備をしている。大好きな人たちとは別れる運命だとしても、その宝物は心に残り続ける。大きな壁にぶつかったり、大けがをするような転び方をした時は、その宝物を掘り出してほしい。きっと、甘くて、苦しくて、溢れんばかりの思い出が出てくるはずだ。そして、また歩き出せるはずだ。心の中にずっといる、最高の仲間とともに。